



# 2月の園だより

令和5年2月1日

目黒区立中央町保育園園長

## ～こころをはぐくむ異年齢児保育～

吐く息が白く、厳しい寒さが続く毎日のなかでも「雪がもっと降らないかな」と雪遊びを心待ちにしている子どもたちは戸外で元気いっぱい遊んでいます。

コロナ禍での生活にも見通しができて、感染対策についてもこの1年で大分緩和されつつあります。今年、保育園でも2日間にわたり行われたお店屋さんごっこは、3年振りに全年齢が参加しました。0歳児を見ていると「何かあるのかな」と小さな手に紙袋を握って歩く姿からは“楽しみなこと”に自分から向かおうとするわくわくした気持ちが伝わってきました。5歳児のゲームセンターに入ると「いらっしゃいませ」の声に誘われてそれぞれに興味があるコーナーに向かって行きます。ある子は「マリオカート」が気に入って「1回ずつね」と案内してくれる5歳児の傍から離れようとせず、何と5回チャレンジのサービスをもらい満足そうです。また、レストランコーナーでは4歳児の「しばらくお待ちください」の声は気にせず”ピンポン“(オーダーお願いします)とベルを繰り返し押し、ほぼすべてのメニューを食べ終えましたが「そろそろ次の店に行かない」と保育士に誘われてもなかなか立ち上がりません。その姿を見てのかかわりでしょうか、4歳児が「ジュースもありますよ」とデザートを大盛で運んでくれると笑顔で受け取っていました。“小さいながらも自分の好きなこと”に向かって行動する0歳児や“相手が何をしたいのか”を感じながらかかわろうとする4、5歳児の姿から、遊びや活動を通して子どもたちの主体性や人とのかかわりが育まれることを実感し、これからも異年齢児保育を大切に進めていきたいと感じました。



### 今月の予定

節分

避難訓練・身体計測



### 【懇談会予定】

0歳児クラス

3歳児クラス



## 乳児クラスの冬の遊び紹介 ～ビニール風～

何を描こうかな



見て～



ふわふわしたよ



## ☆お店屋さんごっこ☆

先日、2日間にわたり幼児クラスを中心にお店屋さんごっこを楽しみました。その様子をお伝えします。

### もみじ組（3歳児クラス）

初めてのお店屋さんごっこでは、日頃の遊びの中で子どもたちが作り、ままごとで使っていたピザとポテトを売るお店を出すことにしました。品物を作りながら「お店屋さん今日やるの」とその日を心待ちにしながら過ごしてきました。当日、開店準備の出来たお店を見て「わぁ〜」「かわいい」と喜び、エプロンや帽子を着けると「お客さんもう来る」とわくわくした様子が伝わってきます。開店の合図があると大きな声で「いらっしゃいませ」とお客さんを呼び「ピザひとついいですよ」「こっちでカード“ピッ！”ってしてください」と店員になりきってやりとりをしています。買い物にも出かけ、それぞれのお店でお兄さんやお姉さんに説明を受けると真剣に聞いて参加しています。お部屋に戻って来ると「あのね、お化け屋敷怖かったけど泣かなかったよ」「ガチャガチャしたよ」とそれぞれのお店で楽しかったことをたくさん話して教えてくれました。自分のお店も買い物も楽しみ、初めてのお店屋さんごっこに大満足でした。



### いちよう組（4歳児クラス）

12月の発表会で取り組んだ劇「くすのきだんちは10かいだて」から発想を得て、レストランとお化け屋敷をオープンしました。どんなメニューを出すのか、どんな方法で驚ろかせるのかなどアイデアを出し合いながら準備を進め、張り切って当日を迎えました。レストランではたくさんのお客さんに忙しそうにしながらも「受付やるよ」「注文聞いてくる」とまわりを見ながら動き、2日目には「すぐにご飯が作れるようにしたよ」と前日のことを踏まえて物の配置を変える姿がありました。お化け屋敷では「すごくびっくりしてた」とお客さんの反応が嬉しく、それがもっと驚かせたい気持ちにつながったようで次の日には「こうやって動いたらもっとびっくりするかも」と動き方をアレンジしていました。どちらのお店もより喜んでもらえる工夫を友だちと考える姿も楽しそうです。また、乳児クラスのお客さんには「何がいい」と目線を合わせて優しく声をかけたり「あんまり怖くないお化けにしよう」と相談したりと相手のことも考えながら楽しんだお店屋さんになりました。



### ぽぷら組（5歳児クラス）

クラス全員で相談してゲームセンターをやることに決めました。子どもたちが自然とチームごとに集まって準備が始まり、やりたいイメージを伝え合って作る物を決めていきます。「ゾンビが出てきて倒す射的にしたい」「じゃあ弓矢を作ろう」と飛ばすにはどうしたらいいかを考え、その中で決まった使いたい道具や素材を保育士が渡すとどのチームもアイデアを出し合い、試行錯誤しながら作っていました。当日はゲームのやり方を丁寧に伝えたり、小さいクラスの子どもたちにはルールを簡単にしたり、自分たちのゲームをどの子にも楽しんでもらえるように工夫しながらお客さんと関わっていました。ゲームセンターは大繁盛でお客さんが次から次へと来てくれる喜びや、自分が作った景品を選んでくれる嬉しさを感じられたようです。お店屋さんごっこが終わると「ふ〜、仕事するって大変だね。ママたちすごいわ」とお家の人への感謝の気持ちも言葉にしていました。

